

CONCERT NO. 100

未来への叙事詩



明治大学ハーモニカソサエティー
第100回定期演奏会

1981. 11. 18 (WED)



時は

果てしなく流れて行く
壮重な歴史の中を
めぐる季節の中を
そして、私達の心の中を

ふと立ち止まり、振り返れば
様々な出来事が、まるで星くずのように
まばゆく見える

さあ、前を向いて
未来を見つめ
飛び立とう、今こそ 音の翼に乗って！

ごあいさつ



明治大学ハーモニカソサエティーは、このたび第100回定期演奏会を開催することになりました。この日が迎えられましたのも、永年にわたったOB・在校生などソサエティー構成者のたゆまぬ精進の結果ではありまじょうが、また、ソサエティーの創立以来60年余にわたってソサエティーの発展を盛り立てて下さった多くの方々の御支援のたまものと、深く感謝申し上げます。このうえは第200回定期演奏会が、つつがなく開催できますようにと祈るばかりです。

第100回定期演奏会という記念すべき日に備えて、部員一同、夏期合宿をはじめとして多くの練習に励んでまいりました。本日の演奏会は、ソサエティーの歴史のなかでも意義深い演奏会になるものと信じております。御来場の皆様におかれましても晩秋の宵を楽しくお過ごし下さいますように、また、今後とも一層の御声援をと、心からお願い申し上げます。

部長 北島 忠 男



大正8年に結成された我が明大ハーモニカソサエティーは64年の星霜を経て、本日をもって第100回目の記念演奏会を開催することになりました。OB達は物故者を除き300有余名あり、日本全国に散らばり、各界の指導者、或いは中堅として活躍を続けている次第であります。

振り返って創立当時を回想すると、佐藤時太郎・北島義郎・鈴木重吉氏等々の発起人が居って、春柳振作先生が産みの親となり、川口章吾先生が育ての親となり、両巨匠の指導宜敷を得て、部は益々充実し、日本の国内は勿論の事、海外にも進出したのであります。

今後、当部は更に一層の刷新を計り輝かしい歩みを続けて行く事と信じて疑いません。私達OBは側面より援助し表裏一体を計り、斯界の向上発展と世界に誘う我がソサエティーの歴史の灯を消さぬ様に努力することに決した次第であります。

御来場の皆様には、変わりなき御声援と御庇護を賜わらんことを切にお願い申します。

OB会会長 布施 莊兵衛

本日は、明治大学ハーモニカソサエティー第100回定期演奏会の開催、誠におめでとうございます。私達は年二回南北の各地に演奏旅行にまいりますが、必らずと言っていい程お会いするのはハーモニカソサエティーのOBの方々です。ほぼ全国的に広がったOBの方々を見ても、ハーモニカソサエティーの歴史を感じないではられません。これからも一回づつ定期演奏会を積み重ねて、又多くの人々を世に送り出していかれることをお祈り申し上げます。

明治大学マンドリン倶楽部

さまざまな楽器がより集まり一曲一曲しあげていく……。

ハーモニカソサエティーの音楽の灯をともしつづけて60年余り。一つの節目としてむかえられた第100回目の演奏会、おめでとうございます。同じハーモニカ音楽を目指す同志として、今宵のステージの成功と今後の御活躍を心からお祈りいたします。

文責(大村和久・立大)立・早・中大 ハーモニカソサエティー



本日はお忙しい中、明治大学ハーモニカソサエティーの定期演奏会に御来場くださりまして誠に有難うございます。当演奏会も今回を持ちまして、遂に第100回を迎えることができました。この記念すべき演奏会を我々一同の手で行なうことができますことを、大変光榮に思っています。これも御来場の皆様、諸先輩の心暖まるご支援とご指導の賜と部員一同深く感謝申し上げます。

また、今回の演奏会は、幹部交代後初の舞台であり、四年生の最後のステージであるという大変意味深いものです。演奏会というほんの一コマではありますが、今宵の我々のステージを通して多くの皆様の心のハーモニーとして記憶に残ることを期待しております。

最後に、当演奏会を開催するにあたり御協力くださいました皆様に厚く御礼申し上げます。

幹事長 松 田 豊

